

## 第14節 景観

事業実施区域及びその周辺には、主要な眺望点及び景観資源が存在するため、工事の実施（工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置）及び土地又は工作物の存在及び供用（道路（地表式又は嵩上式）の存在）に係る主要な眺望点、主要な景観資源及び主要な眺望景観への影響が考えられることから、景観の調査、予測及び評価を行いました。

### 14.1. 工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置及び道路（地表式、嵩上式）の存在に係る景観

#### (1) 調査

##### 1) 調査の手法

##### ① 調査した情報

##### (a) 主要な眺望点の状況

主要な眺望点の状況について調査しました。

##### (b) 景観資源の状況

景観資源の分布について調査しました。

##### (c) 主要な眺望景観の状況

主要な眺望点からの景観資源を眺望する景観の状況について調査しました。

##### ② 調査の手法

調査は、既存資料調査、現地調査により行いました。既存資料を表 11-14-1 に示します。主要な眺望点の状況、景観資源の分布については、既存の文献資料等により把握しました。また、主要な眺望景観の状況については、写真撮影により視覚的に把握しました。

表 11-14-1 既存資料一覧

資料名	発行年 (閲覧年月)	発行者等
豊橋の観光とお土産ガイド ええじゃないか豊橋	(令和 7 年 3 月時点)	豊橋観光コンベンション協会 ホームページ
豊橋市 緑のスポット	(令和 7 年 3 月時点)	豊橋市ホームページ
豊橋自然歩道ガイドブック	令和 5 年 4 月	豊橋市
第 3 回自然環境保全基礎調査長野 県自然環境情報図	平成元年	環境庁
美しい愛知づくり景観資源 600 選	(令和 7 年 3 月時点)	愛知県ホームページ
全国観光情報サイト 全国観るなび	(令和 7 年 3 月時点)	日本観光振興協会ホームページ
豊橋市景観資源ガイドマップ	令和 3 年 9 月	豊橋市役所都市計画部都市計 画課
渥美半島だより	(令和 7 年 3 月時点)	渥美半島観光ビューロー
三河港振興会	(令和 7 年 3 月時点)	三河港振興会ホームページ
校区のあゆみ 植田	平成 18 年 12 月	豊橋市総代会

### ③ 調査地域

事業実施区域及びその端部から 3km 程度の範囲を目安とし、その範囲において主要な眺望点が分布する地域としました。

### ④ 調査地点

主要な眺望点及び景観資源の分布、視覚的關係及び対象道路の位置等を踏まえ、主要な眺望景観の変化が生じると想定される地点を設定しました。主要な眺望景観が地下式構造の方向で、眺望景観の変化が生じないことが明らかな眺望点は調査対象から除外しました。景観資源は、事業実施区域の範囲外で改変が生じるおそれがない地点は調査対象から除外しました。

調査地点を表 11-14-2 及び図 11-14-1 に示します。

表 11-14-2 (1) 景観の調査地点 (主要な眺望点)

No	名称	概要	事業実施区域までの距離※
1	ポートインフォメーションセンター カモメリア	「日本一の自動車港湾、三河港を知る・学ぶ・楽しむ」をテーマとした体験型の展示施設です。地上 30m の展望台から三河港を一望できるほか、南アルプスの東岳、赤石岳といった山々を眺望できます。	約 2.3km
2	岩屋緑地公園	敷地内に岩屋観音がある広大な緑地で、約 1,000 本の桜が植栽されています。標高約 100m の大蔵山にある展望台があり、豊橋市街地や太平洋が一望できます。	約 1.0km
3	岩屋観音	岩屋山の頂上に建つ観音像から、岩屋緑地や豊橋市街地、南部田園周辺の広大な畑地等を一望できます。	約 0.7km

表 11-14-2 (2) 景観の調査地点 (景観資源)

No	名称
A	岩屋緑地
B	南部田園周辺の広大な畑地
C	明海緩衝緑地
D	梅田川
E	車神社古墳
F	高師原

## ⑤ 調査期間等

既存資料調査の調査期間等は、最新のものを入手可能な時期としました。

現地調査の調査期間等は、主要な眺望点の利用状況（利用時期、利用時間帯等）、景観資源の自然特性（見どころとなる時期等）を考慮し、主要な眺望景観が当該地域において代表的なものとなる期間、時期及び時間帯としました。

現地調査の調査期間等を表 11-14-3 に示します。

表 11-14-3 調査時期

No	調査地点	調査期間
1	ポートインフォメーションセンター カモメリア	冬季 : 令和 3 年 2 月 18 日 春季 : 令和 3 年 5 月 14 日 夏季 : 令和 3 年 7 月 30 日 秋季 : 令和 3 年 11 月 27 日
2	岩屋緑地公園	冬季 : 令和 3 年 2 月 18 日 早春季 : 令和 3 年 4 月 1 日 夏季 : 令和 3 年 7 月 30 日 秋季 : 令和 3 年 11 月 28 日
3	岩屋観音	夏季 : 令和 6 年 8 月 18 日 秋季 : 令和 6 年 11 月 23 日 冬季 : 令和 7 年 1 月 17 日 早春季 : 令和 7 年 3 月 31 日

## 2) 調査の結果

## ① 主要な眺望点の状況

主要な眺望点の状況を表 11-14-4 に、位置を図 11-14-1 に示します。

表 11-14-4 主要な眺望点の状況

区分	No	主要な眺望点	眺望高さ	視対象	利用時期・ 時間帯
主要な 眺望点	1	ポートインフォメーションセンター カモメリア	約 29.5m	三河湾	平日・9:00～17:00 休館日：年末年始 (12月29日～1月3日)
	2	岩屋緑地公園	約 116.5m	豊橋市街地、 南部田園周辺の広大な畑地、 蔵王山	—
	3	岩屋観音	約 80.5m	岩屋緑地、 豊橋市街地、 南部田園周辺の広大な畑地	—

出典：三河港振興会（三河港振興会ホームページ）



図 11-14-1 主要な眺望点位置図

## ② 景観資源の状況

景観資源の分布を表 11-14-5 に、位置を図 11-14-2 に示します。

表 11-14-5 景観資源の分布

No	名称	自然特性等	写真
A	岩屋緑地	東部丘陵の南端にある緑地で、標高約 100mの大蔵山と岩屋観音が建つ岩屋山のふたつの小山があります。緑地内の雑木林にはネイチャートレイルが整備され、ボランティア団体が市と協働で里山保全活動を行っています。岩屋山は、チャートの岩山で、浅い洞くつなどの変化のある地形を観察することができます。緑地の上空は、タカ類などの渡り鳥のルートになっています。	
B	南部田園周辺の広大な畑地	豊橋市南部の緩やかな起伏のある大地に、キャベツ畑等の田園が広がっています。豊川用水の豊かな水と温暖な気候に恵まれ、豊橋市は全国トップクラスの農業産出額を誇る産地となっており、南部の農地はその基盤となっています。	
C	明海緩衝緑地	三河湾沿岸の埋立てにより明海地区の臨海工業地帯が造成された際に、陸地との緩衝帯として設けられた緑地です。工業地帯の東側に通る幹線道路に沿って、中高木の木々が生い茂る緑地帯が約 4 km に亘って繋がっています。	
D	梅田川	豊橋市の南部地域を東西に流れる二級河川で、船渡町付近で三河湾に注いでいます。河口付近は、三河湾の潮の干満の影響を受ける汽水域で、干潮時には川の両岸に干潟が現れます。国道 259 号線の植田橋より上流部にはヨシ原が広がっており、二川宿の南辺りには両岸に桜並木があります。	
E	車神社古墳	古墳時代後期の前方後円墳で、梅田川下流域を支配した豪族の墓であると考えられています。後円部上に車神社の社殿があるため正確な規模は分かりませんが、現状で全長約 33m、後円部の径約 17m、前方部の長さ約 16m です。古墳と神社との直接の関係はなく、古墳であることを知らずに神社が建てられたといわれています。ここを古来住民はふぐの森と呼んでいます。	
F	高師原	JR 東海道線と豊橋鉄道渥美線、梅田川に囲まれた洪積台地で、標高は 20～30m あります。かつてはやせた地味の原野であり、明治 41 年（1908 年）に旧陸軍の演習地となりました。第二次世界大戦後は、深刻な食糧事情の解決や、戦災・復員・引揚者の就農のために、軍用地を民間へ開放し開拓が進められました。その後、都市化が進行し、現在は、ほとんどが住宅地になっています。	

出典：豊橋市景観資源ガイドマップ（令和3年9月、豊橋市役所都市計画部都市計画課）  
校区のあゆみ 植田（平成18年12月、豊橋市総代会）

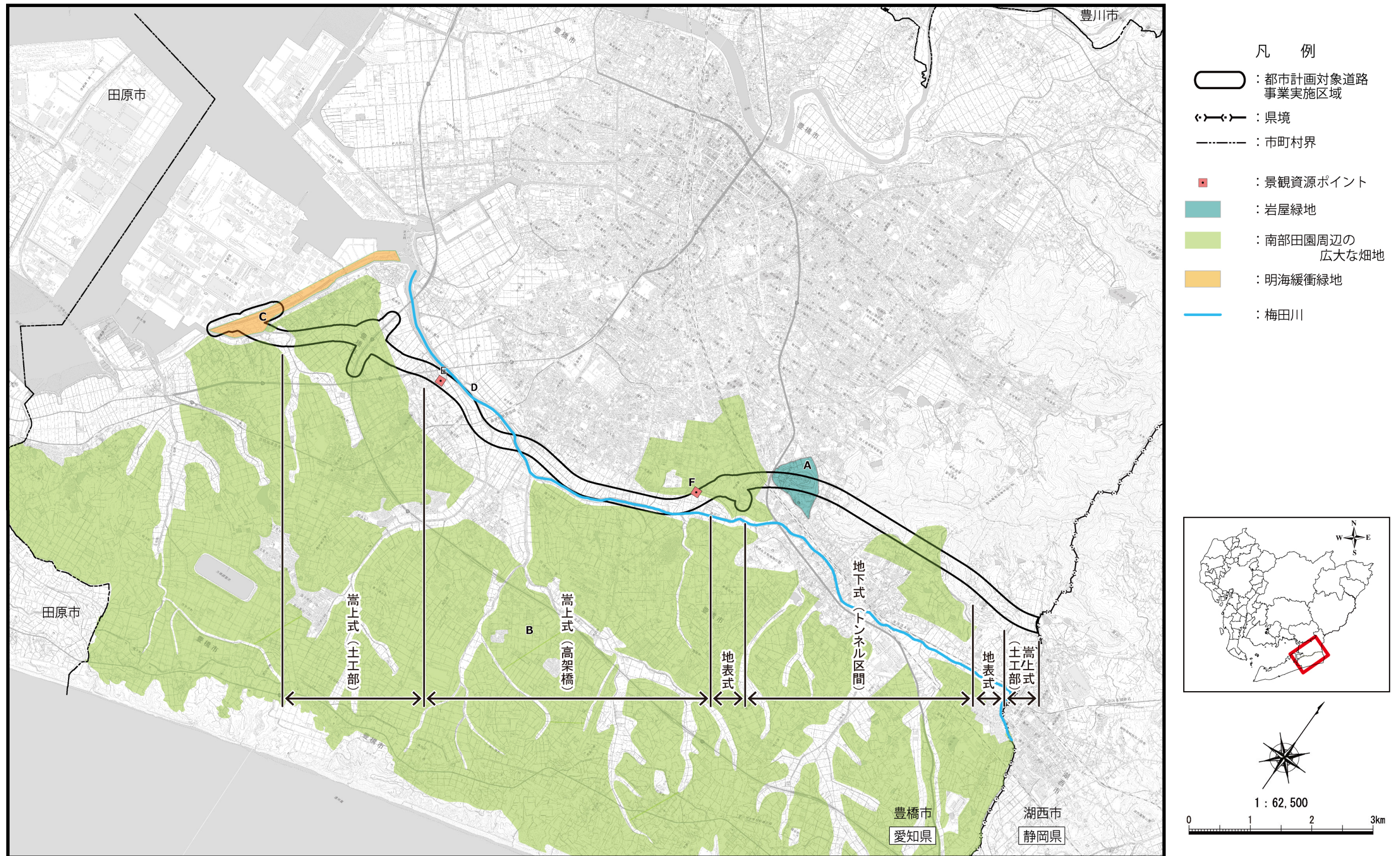


図 11-14-2 景観資源位置図

### ③ 主要な眺望景観の状況

道路（地表式又は嵩上式）の存在により、眺望景観の状況に変化が生じると考えられる主要な眺望景観の概要を表 11-14-6 に、主要な眺望景観の状況を表 11-14-7(1)～(3)に示します。

表 11-14-6 主要な眺望景観の概要

区分	No	主要な眺望点	主要な眺望景観の状況
主要な眺望点	1	ポートインフォメーションセンター カモメリア	主要な眺望点からは、対象道路の方向に三河湾が視認できます。
	2	岩屋緑地公園	主要な眺望点からは、対象道路の方向に豊橋市街地、南部田園周辺の広大な畑地が視認できます。 また、蔵王山が視認できます。
	3	岩屋観音	主要な眺望点からは、対象道路の方向に豊橋市街地、南部田園周辺の広大な畑地が視認できます。

表 11-14-7(1) 主要な眺望景観の状況（ポートインフォメーションセンター カメラ）



調査地点名	ポートインフォメーションセンター カメラ	
主要な眺望点の概要	「日本一の自動車港湾、三河港を知る・学ぶ・楽しむ」をテーマとした体験型の展示施設です。地上30mの展望台から三河港を一望できるほか、南アルプスの東岳、赤石岳といった山々を眺望できます。	
主要な眺望景観の概要	眺望点の東側から南側に景観資源である南部田園の広大な畑地が広がっていますが、眺望点からは見えません。対象道路の方向に三河湾を眺望できます。	
主要な眺望点の位置		
<p>凡例</p> <p>   : 都市計画対象道路事業実施区域              : 南部田園周辺の広大な畑地         </p>		
<p>眺望景観の状況</p> <p><b>冬季</b></p>  <p>撮影日：令和3年2月18日</p>		
<p><b>春季</b></p>  <p>撮影日：令和3年5月14日</p>		
<p><b>夏季</b></p>  <p>撮影日：令和3年7月30日</p>		
<p><b>秋季</b></p>  <p>撮影日：令和3年11月27日</p>		

表 11-14-7(2) 主要な眺望景観の状況（岩屋緑地公園）

調査地点名	岩屋緑地公園	
主要な眺望点の概要	眺望景観の状況	
主要な眺望景観の概要	<p>敷地内に岩屋観音がある広大な緑地で、約1,000本の桜が植栽されています。標高約100mの大蔵山に展望台があり、豊橋市街地や太平洋が一望できます。</p>	
主要な眺望点の位置	<p>景観資源として南部田園周辺の広大な畑地を眺望できます。</p>	
<p>主要な眺望点の位置</p> 	<p>冬季</p>  <p>撮影日：令和3年2月18日</p> <p>早春季</p>  <p>撮影日：令和3年4月1日</p> <p>夏季</p>  <p>撮影日：令和3年7月30日</p> <p>秋季</p>  <p>撮影日：令和3年11月28日</p>	

表 11-14-7(3) 主要な眺望景観の状況（岩屋観音）

調査地点名	岩屋観音	
主要な眺望点の概要	眺望景観の状況	
主要な眺望景観の概要	<p>岩屋山の頂上に建つ観音像から、岩屋緑地や豊橋市街地、南部田園周辺の広大な畑地等を一望できます。</p>	
主要な眺望点の位置	<p>景観資源として南部田園周辺の広大な畑地を眺望できます。</p>	
	<p><b>冬季</b></p>  <p>撮影日：令和7年1月17日</p> <p><b>早春季</b></p>  <p>撮影日：令和7年3月31日</p> <p><b>夏季</b></p>  <p>撮影日：令和6年8月18日</p> <p><b>秋季</b></p>  <p>撮影日：令和6年11月23日</p>	

(2) 予測

1) 予測の手法

① 予測手法

(a) 工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置

主要な眺望点及び景観資源の位置と工事施工ヤード、工事用道路等の設置が想定される範囲を重ね合わせ、図上解析することにより、改変の位置、程度を把握しました。

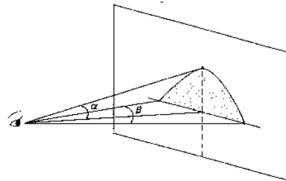
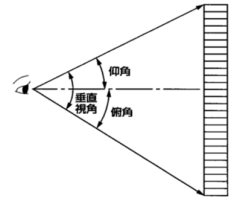
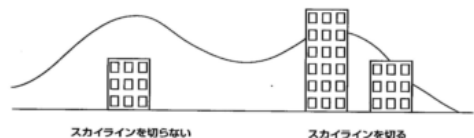
(b) 道路（地表式、嵩上式）の存在

主要な眺望点及び景観資源の改変については、事業実施区域との重ね合わせ、図上解析することにより、改変の位置、程度を把握しました。

主要な眺望景観の変化については、フォトモンタージュ法等の視覚的な表現方法により眺望景観の変化の程度を把握しました。

また、表 11-14-8 に示す視覚に関する物理的指標について整理するとともに、必要に応じて主要な眺望景観の変化の程度を把握するための参考としました。

表 11-14-8 視覚に関する物理的指標

指標	内容	
視距離	<p>視距離によって施設などの認知を規定する要因(テクスチャー、色彩、形態等)が変化しますので、保全水準の達成の程度の判定及び保全対策の立案への指標としても役立ちます。</p>	<p>景観の視距離を近景・中景・遠景と区分すると、この3区分は対象によってその絶対的距離は異なってきますが、概ね以下のような感覚でとらえられます。</p> <p>近景…対象の要素やディテールが目につきやすい領域(500m程度以内)</p> <p>中景…対象全体の形態がとらえやすく、対象が景観の主体となる領域(500m～3km程度)</p> <p>遠景…対象が景観のごく一部となる領域(3km程度以遠)</p>
水平見込角	<p>視点からの対象の見えの大きさを表わす指標で、視点から対象を見込む水平見込角を指標値として用います。</p>	<p>水平見込角が、<math>10^\circ</math> を超えると対象構造物は目立つようになります。</p>  <p><math>\alpha</math> : 垂直視角 <math>\beta</math> : 水平見込角</p>
仰角	<p>仰角とは、対象物の上端と視点を結ぶ線と水平線のなす角。構造物見えの面積とほぼ比例関係にある仰角を圧迫感の指標として用います。仰角が大きいと圧迫感を感じます。</p>	<p>仰角は <math>18^\circ</math> になると圧迫感が感じられ始め、<math>30^\circ</math> では対象物が全視野を占め、圧迫感が残ります。(メルテンスの法則)</p> <p>また、俯角 <math>10^\circ</math> 付近は俯瞰景観における中心領域であるといわれており、対象道路事業実施区域がその周辺に位置する場合は目につきやすくなります。</p>
俯角	<p>対象物の下端と視点を結ぶ線と水平線のなす角。俯瞰景観においては、俯角が目につき易さの重要な指標となります。</p>	
スカイライン切断の有無	<p>スカイラインとは山が空を背景として描く輪郭線のこと。</p>	<p>人工物の出現により、スカイラインの連続性が切断された場合には、景観上の支障が大きくなるとされています。</p> 

**② 予測地域****(a) 工事施工ヤードの設置、工事中道路等の設置**

工事施工ヤード、工事中道路等の設置により主要な眺望点及び景観資源の改変が想定される地域としました。

**(b) 道路（地表式、嵩上式）の存在**

調査地域のうち、景観の特性を踏まえて、主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域としました。

**③ 予測対象時期等****(a) 工事施工ヤードの設置、工事中道路等の設置**

工事施工ヤード、工事中道路等の設置が想定される時期としました。

**(b) 道路（地表式、嵩上式）の存在**

対象道路の完成時において、主要な眺望点の利用状況（利用時期等）、景観資源の自然特性（見どころとなる時期等）を踏まえ、主要な眺望点、景観資源及び主要な眺望景観の影響を明らかにする上で必要な時期としました。

**2) 予測の結果****① 主要な眺望点及び景観資源の改変**

工事の実施（工事施工ヤードの設置、工事中道路等の設置）及び土地又は工作物の存在及び供用（道路（地表式又は嵩上式）の存在）に係る主要な眺望点、主要な景観資源への影響の予測結果は、次のとおりです。

岩屋緑地では対象道路が地下式で通過し、一部に工事施工ヤード等の設置を計画しています。工事施工ヤードの設置、工事中道路等の設置により、岩屋緑地約46.14haの中の約0.097haが改変されますが、岩屋緑地の面積に対して改変面積は極めて小さく、また、供用後には現状復旧する計画であることから、景観資源の価値を大きく損なうものではなく、影響は極めて小さいと予測されます。

南部田園周辺の広大な畑地では対象道路が地表式及び嵩上式、地下式で通過します。工事施工ヤードの設置、工事中道路等の設置及び道路の存在により、南部田園周辺の広大な畑地約72km<sup>2</sup>の中の約0.3km<sup>2</sup>が改変されますが、同様の畑地は周辺に広く分布することから、景観資源の価値を大きく損なうものではなく、影響は極めて小さいと予測されます。

明海緩衝緑地では対象道路が嵩上式で通過します。工事施工ヤードの設置、工事中道路等の設置及び道路の存在により、明海緩衝緑地約0.6km<sup>2</sup>の中の約0.02km<sup>2</sup>が改変されますが、景観資源の価値を大きく損なうものではなく、影響は極めて小さいと予測されます。

梅田川では対象道路が嵩上式で通過します。工事施工ヤードの設置、工事中道路等の設置及び道路の存在により、愛知県区間の河川延長約13.1kmの中の約0.1km区間が改変されますが、景観資源の価値を大きく損なうものではなく、影響は極めて小さいと予測されます。

その他の主要な景観資源の車神社古墳及び高師原は、嵩上式区間に位置するものの対象道路は

回避する予定であり、主要な眺望点については、ポートインフォメーションセンター カモメリアは事業実施区域外であり、岩屋緑地公園（展望台）及び岩屋観音は地下式区間であるため対象道路によって改変を受けないことから、影響はないと予測されます。

## ② 主要な眺望景観の変化

土地又は工作物の存在及び供用（道路（地表式又は嵩上式）の存在）に係る主要な眺望景観への影響の予測結果は、次のとおりです。

### (a) ポートインフォメーションセンター カモメリア

本眺望景観は、地上 30m の高さにある展望台から、西方向に三河湾を眺望しています。

対象道路等は、三河港 IC（仮称）の一部が視認されますが、景観資源への眺望の変化はありません。

物理的指標による解析結果は表 11-14-9 に示すとおりです。

物理的指標による解析の結果、対象道路等は中景に位置しており、水平見込角は約 8 度、俯角約 0.3 度と目立ちにくい値であり、また、臨海部の工業地帯に溶け込んでいるため、ほとんど目立ちません。

これらのことから、本眺望景観の変化は極めて小さいと予測されます。

表 11-14-9 視覚に関する物理的指標による解析結果

指 標	内 容
視距離	約 2.3km（中景）
水平見込角	約 8 度
俯角	約 0.3 度
スカイライン切断の有無	無し
総括	眺望景観の変化は極めて小さい

< 現 況 >



撮影日:令和3年2月18日

< 完成後 >



写真 11-14-1 ポートインフォメーションセンター カメラからの眺望の状況の変化

**(b) 岩屋緑地公園**

本眺望景観は、標高約 100m の大蔵山にある展望台から、南西方向に景観資源である南部田園周辺の広大な畑地を眺望しています。

対象道路等は、豊橋 IC（仮称）や高架部の一部、大崎北 JCT（仮称）、三河港 IC（仮称）が視認されますが、景観資源への眺望の変化はほとんどありません。

物理的指標による解析結果は表 11-14-10 に示すとおりです。

物理的指標による解析の結果、対象道路等は中景に位置しており、水平見込角は約 32 度、俯角は約 6 度とやや目立ちやすい値になっていますが、住宅地や商業施設等の周辺建物に溶け込んでいるため、人工構造物は目立ちにくくなっています。

これらのことから、本眺望景観の変化は極めて小さいと予測されます。

**表 11-14-10 視覚に関する物理的指標による解析結果**

指 標	内 容
視距離	約 1.0km（中景）
水平見込角	約 32 度
俯角	約 6 度
スカイライン切断の有無	無し
総括	眺望景観の変化は極めて小さい

< 現 況 >



撮影日：令和3年4月1日

< 完成後 >



写真 11-14-2 岩屋緑地公園からの眺望の状況の変化

**(c) 岩屋観音**

本眺望景観は、岩屋山の頂上に建つ観音像から、南西方向に景観資源である南部田園周辺の広大な畑地を眺望しています。

対象道路等は、豊橋 IC（仮称）や高架部の一部が視認されますが、景観資源への眺望の変化はほとんどありません。

物理的指標による解析結果は表 11-14-11 に示すとおりです。

物理的指標による解析の結果、対象道路等は中景に位置しており、水平見込角は約 20 度、俯角は約 5 度とやや目立ちやすい値になっていますが、住宅地や商業施設等の周辺建物に溶け込んでいるため、人工構造物は目立ちにくくなっています。

これらのことから、本眺望景観の変化は極めて小さいと予測されます。

**表 11-14-11 視覚に関する物理的指標による解析結果**

指 標	内 容
視距離	約 0.7km（中景）
水平見込角	約 20 度
俯角	約 5 度
スカイライン切断の有無	無し
総括	眺望景観の変化は極めて小さい

< 現 況 >



撮影日：令和7年1月17日

< 完成後 >



写真 11-14-3 岩屋観音からの眺望の状況の変化

### (3) 環境保全措置の検討

#### 1) 環境保全措置の検討の状況

予測の結果、工事施工ヤード、工事用道路等の設置及び道路（地表式、嵩上式）の存在に係る主要な眺望点及び景観資源における改変による影響は極めて小さいと予測され、また主要な眺望景観への影響についても極めて小さいと予測されたことから、環境保全措置の検討は行わないこととしました。

### (4) 評価

#### 1) 評価の手法

##### ① 回避又は低減に係る評価

工事施工ヤード、工事用道路等の設置及び道路（地表式、嵩上式）の存在に係る景観の影響が、事業者により実行可能な範囲内で行える限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより行いました。

#### 2) 評価の結果

##### ① 回避又は低減に係る評価

対象道路の検討にあたっては、集落・市街地、重要な地形及び地質、動物や植物の重要な種、景観の保全上重要な箇所等への影響をできる限り回避する計画としています。

自然公園を通過する区間をトンネル構造として地表の改変を抑え、景観の保全上重要な箇所等への影響を出来る限り回避し、主要な眺望点及び景観資源の改変、主要な眺望景観の変化を抑えた計画としています。工事施工ヤード及び工事用道路は、対象道路の区域内を極力利用する計画とし、地形の改変を抑えるとともに、地形の改変による裸地の発生を極力抑えることとします。

また、予測の結果、主要な眺望点及び景観資源の改変による影響は極めて小さく、主要な眺望景観の変化は極めて小さいと予測されました。

これらのことから、工事の実施及び道路の存在に係る景観の影響は、事業者により実行可能な範囲内で行える限り回避又は低減されていると評価します。